

令和6年中の山岳遭難発生状況

山系別発生状況

※ () 内は令和5年対比

山系	発生件数	遭難者数	死者	負傷者
くじゅう山系	28(+9)	30(+9)	1(+1)	16(+7)
祖母・傾山系	6(+4)	6(+4)	1(+1)	4(+3)
由布・鶴見岳	9(-3)	10(-8)	1(+1)	4(+1)
その他	8(-4)	10(-6)	1(-1)	1(-4)
合計	51(+6)	56(-1)	4(+2)	25(+7)

平成27年・令和4年に並び『過去最多』

統計開始（昭和42年）以降『過去最多』

山系別の態様

(件)

(数値は暫定値です)
※ () 内は令和5年対比

山系	転倒	滑落	道迷い	疲労	病気	その他	不明
くじゅう山系	8(+2)	1(0)	9(0)	5(+4)	3(+1)	2(+2)	(0)
祖母・傾山系	2(+1)	3(+3)	1(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
由布・鶴見岳	1(-1)	2(+1)	4(-3)	(-1)	(-1)	1(+1)	1(+1)
その他	(0)	1(-1)	5(+2)	1(0)	1(+1)	(-4)	(-4)
合計	11(+2)	7(+3)	19(-1)	6(+3)	4(+1)	3(-1)	1(-3)

約22%

約37%

令和5年比2倍

令和6年中は、**過去最多の山岳遭難が発生**し、**過去最多の人が負傷**しました。
年間では、ミヤマキリシマが見頃を迎えた『5月』(10件)と、紅葉が映える『11月』(9件)に多く発生しています。
遭難の態様では、**装備不備(照明・地図不携帯等)や地理不案内による『道迷い』が最も多く発生しています。**
また、**年齢や経験に応じない登山を敢行し、体力不足等による『疲労』が令和5年の2倍発生しました。**
遭難者に登山届の作成・提出状況を確認したところ、**6割以上の方が未作成・未提出**でした。

①GPS付きスマートフォンと予備バッテリーを携帯しよう

助けを呼ぶ際に必ず必要になります

②経験、体力に応じた無理のない登山を計画しよう

登山は計画を立てるところから始まります

③登山届を必ず提出しよう

計画・装備の確認、救助隊の重要な情報になります

④非常食、雨具、照明具は必ず携帯しよう

急な天候の変化や遭難を想定した装備の準備

⑤天候不良時は勇気をもって登山を中止しよう

視界不良による遭難や低体温症など命の危険が伴います

⑥単独登山はやめて仲間と登ろう

単独では救助を呼べない状況が発生する可能性があります